

育毛効果を有する香料成分

企業 / ヴェ・マン・フィス香料(株)

研究者 / 中澤裕之 (星薬科大学教授)

若年性男性型脱毛症は、テストステロンが、還元酵素 (5 α -リダクターゼ) によりジヒドロテストステロンに変換され、発症することが知られている。香気成分であるジャスモン誘導体は、強い5 α -リダクターゼの阻害作用を持つため、育毛剤成分として期待が大きい。しかし、これら誘導体は光学異性体であることが多く、活性を持たない他の異性体が香りや、皮膚刺激など好ましくない影響を与えるため、開発のネックになっている。幸い、テルペン系化合物の液体クロマトグラフィーによる分離技術が確立し、施光度計の組み合わせにより、光度純度測定が容易になったことから、この技術を利用し、光学純度の高い活性体を用いて育毛剤としての効果を試験した。

本開発において対象としたサンプル中、d1-2、3、4、5 - テトラメチル - 2 - シクロペンテンに男性型脱毛症に対する効果が確認され、さらに香りの評価においてもヘアートニックに最適なカンファリックな香りを呈することが明らかとなった。ひき続き、本化合物を育毛剤の香料兼有効成分の一つとして利用が可能か否か外部協力も得つつ評価を続けている。